



湯沢町の平成 18 年度決算



一般会計

収支は3億3572万5千円

平成 18 年度は、観光事業会計を廃止するため、一般会計は多額の負担をしました。そのため貯金(基金)をおろす必要が生じ、昨年黒字に転じた実質的な収支が、一時的に赤字になりました。

	収入－支出 A	収入のうち前年度からの繰越金 B	収入のうち貯金をおろした額 C	支出のうち貯金に積み立てた額 D	実質的な収支 A－B－C＋D
平成 15 年度	4 億 6845 万 8 千円	3 億 7588 万円	1 億 8595 万 7 千円	38 万円	▲ 9299 万 9 千円
平成 16 年度	5 億 3375 万 2 千円	4 億 6845 万 8 千円	1 億 5830 万 6 千円	32 万 5 千円	▲ 9268 万 7 千円
平成 17 年度	3 億 5803 万 1 千円	5 億 3375 万 2 千円	0 円	5 億 9352 万 1 千円	4 億 1780 万円
平成 18 年度	3 億 3572 万 5 千円	3 億 5803 万 1 千円	1 億 5445 万 2 千円	103 万 4 千円	▲ 1 億 7572 万 4 千円

収入の部

72 億 6637 万 5 千円 (対前年度比 1 億 4058 万 1 千円増)

その他 1 億 9831 万 3 千円 (2.7%)

使用料および手数料 5499 万 3 千円 (0.8%)

財産収入 1 億 117 万 4 千円 (1.4%)

地方消費税交付金 1 億 1467 万 2 千円 (1.6%)

地方譲与税 1 億 3990 万 5 千円 (1.9%)

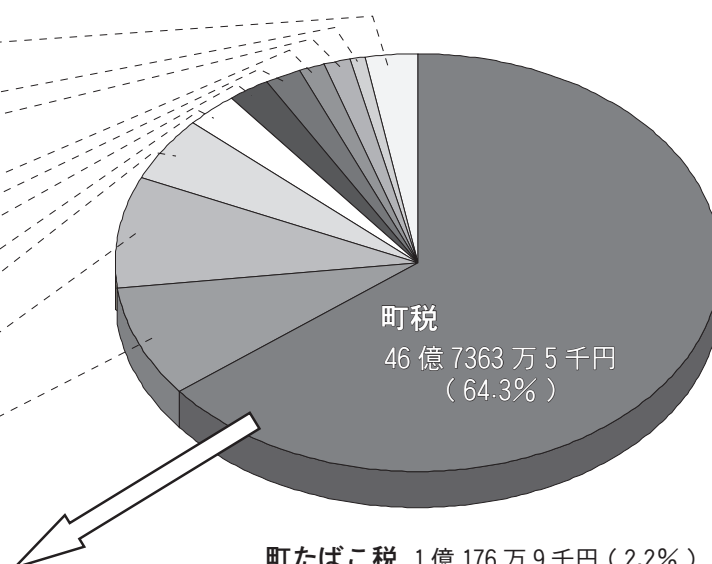
国庫支出金 1 億 5794 万円 (2.2%)

県支出金 2 億 727 万 6 千円 (2.9%)

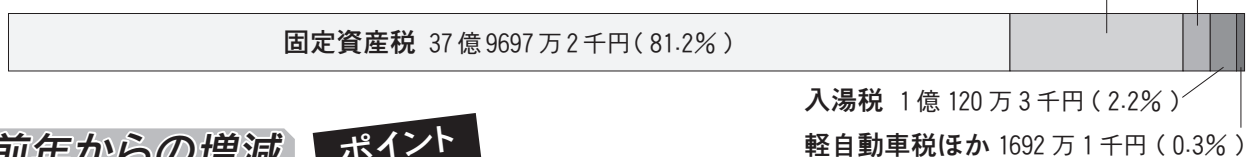
繰越金 3 億 5803 万 2 千円 (4.9%)

繰入金 6 億 2569 万 3 千円 (8.6%)

諸収入 6 億 3474 万 2 千円 (8.7%)



町税の内訳



前年からの増減

ポイント

- ★町 税 4 億 4798 万 3 千円減 (8.7%減)……固定資産税の評価替等により 4 億 8280 万 5 千円減、入湯税が 1114 万 1 千円減になったことが主な要因です。その他、町民税が税源移譲により 5059 万 7 千円増、たばこ税が 247 万円減となっています。
- ★財産収入 1 億 1890 万 1 千円減 (54.0%減)……平成 17 年度には南魚沼地域広域連合の「南魚沼ふるさと市町村圏基金」の清算が行われ、1 億円お金が返ってきましたが、その分が減となりました。
- ★県支出金 2976 万 6 千円減 (12.6%減)……選挙委託金 806 万 5 千円減などにより、前年度より減となりました。
- ★繰入金 5 億 5346 万 9 千円増 (766.3%増)……温泉管理事業清算特別会計繰入金 2 億 819 万 3 千円、減債基金繰入金 2 億 5600 万円の繰入れがあったほか、財政調整基金繰入金の増により、前年度より増となりました。
- ★諸収入 3 億 4223 万 3 千円増 (117.0%増)……観光事業会計の廃止に伴い、ロープウェイ建設時の貸付金の清算が行われ、3 億 5000 万円のお金が返ってきたことが主な要因です。

支出の部

69 億 3065 万円（対前年度比 1 億 6288 万 7 千円増）

労働費 1340 万円 (0.2%)

災害復旧費 5577 万 1 千円 (0.8%)

議会費 6244 万 7 千円 (0.9%)

農林水産業費 1 億 1119 万 5 千円 (1.6%)

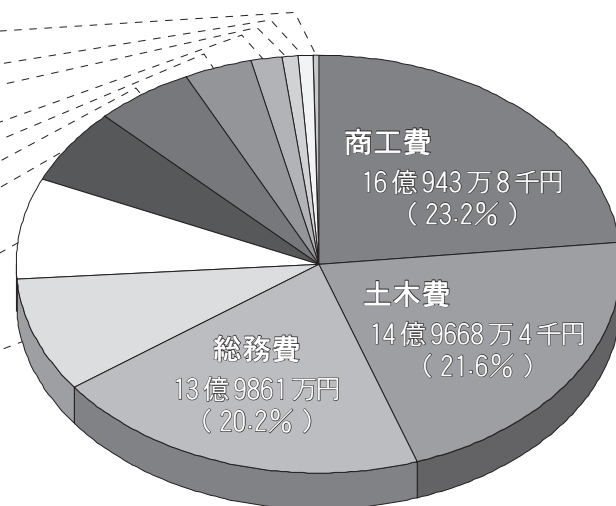
公債費 2 億 5781 万 1 千円 (3.7%)

消防費 3 億 5965 万 4 千円 (5.2%)

教育費 4 億 152 万 2 千円 (5.8%)

衛生費 5 億 4252 万 7 千円 (7.8%)

民生費 6 億 2159 万 1 千円 (9.0%)



前年からの増減

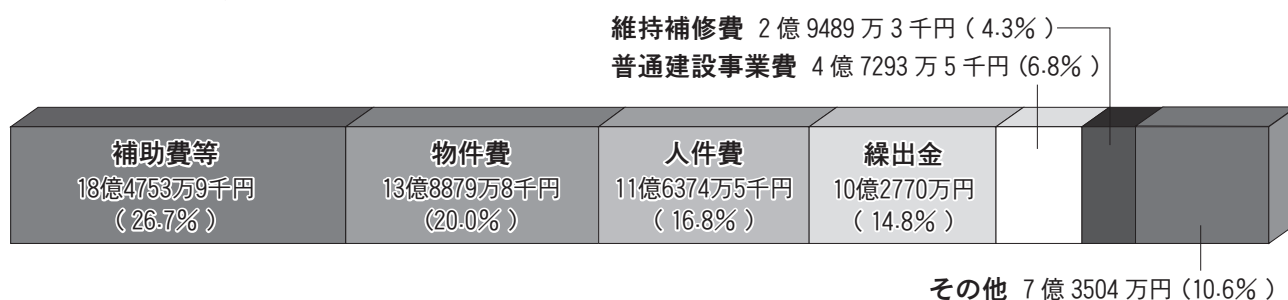
ポイント

- ★商 工 費 10 億 8834 万 8 千円増 (208.9%増) 観光事業会計を廃止するため、一般会計からの補助金が 11 億 6866 万円増となったため、前年度より増となりました。
- ★災害復旧費 4610 万 9 千円増 (477.2%増) 大雪による道路及び施設の損壊復旧工事 3634 万 2 千円増と大雨による河川復旧工事 292 万 5 千円増となったため、前年度より増となりました。
- ★土 木 費 2 億 42 万 7 千円減 (11.8%減) 暖冬少雪で除雪対策費が 2 億 614 万 5 千円の大幅な減となったため、前年度より減となりました。
- ★農林水産業費 3972 万 1 千円減 (26.3%減) 中山間地域総合整備事業にかかる県営事業負担金 2028 万 4 千円減などが主な要因です。

性質別に見た支出の内訳

ポイント

町が使ったお金(69 億 3065 万円)をその性質別によりグラフにしてみると、お金の使い方の特徴を違う側面から見ることができます。



- ▶ 支出の中で最も大きな割合を占めるのが各種団体への負担金・補助金や公営企業(水道事業、観光事業、病院事業)の収入不足を補う補助金の 15 億 4802 万 5 千円(解散により、南魚沼地域広域連合負担金はなくなりましたが、観光事業会計廃止のための多額の補助で、増となっています。)などを集計した補助費等(26.7%)です。
- ▶ 次に大きな割合を占めている物件費(20.0%)は、消耗品購入費、委託料などの消費的な経費です。事務事業の見直しにより経費の削減を図ってきましたが、広域連合解散で南魚沼市へのごみ処理や消防業務の委託費が新たに発生したため、全体として増加しています。
- ▶ 3 番目に大きな割合を占めているのが、人件費(16.8%)です。職員の数が多いことが要因となっています。
- ▶ 4 番目に大きな割合を占めているのが、特別会計(国民健康保険・老人保健・介護保険・下水道)の収入不足を補うために支出された繰出金(14.8%)です。

※特別会計への繰出金や公営企業会計への補助金が、一般会計を圧迫していることがわかります。

特別会計

特定の事業を行う場合に、その事業の収入を支出に充て、一般会計と区別して経理する会計です。

国民健康保険特別会計

収入－支出＝8918万1千円

国民健康保険は、他の医療保険制度に加入していない皆さんのための制度です。歳出では、通常の保険事業のほかに出産育児一時金490万円、葬祭給付費740万円、人間ドック助成金1591万7千円等を支出しています。

一般会計からの繰入金 6698万6千円

◎基金の残高

国民健康保険支払準備基金
1億1392万5千円

皆さんが納める保険税が支えです。

収入		支出	
科目	金額	科目	金額
国民健康保険税	3億5531万9千円	保険給付費	5億4856万9千円
国庫支出金	2億7193万3千円	老人保健拠出金	1億5611万3千円
療養給付費	1億1614万円	介護納付金	7271万8千円
繰入金	6698万6千円	保健事業費	1672万7千円
繰越金	6001万円	総務費	2005万6千円
その他	1億536万円	その他	7238万4千円
計	9億7574万8千円	計	8億8656万7千円

老人保健特別会計

収入－支出＝20万6千円

老人保健制度は、高齢者の医療の負担を軽くし、安心して医療を受けられるようにするための制度です。対象となる75歳（一定の障がいのある人は65歳）以上の人に対し、医療費給付を行います。今後も高齢化が進む中で、医療費等はますます増加していくことが予想されます。

一般会計からの繰入金 6539万8千円

平成20年度から後期高齢者医療制度に移行します。

収入		支出	
科目	金額	科目	金額
支払基金交付金	4億1658万3千円	医療諸費	7億5304万7千円
国庫支出金	2億2250万2千円	諸支出金	1318万9千円
繰入金	6539万8千円	総務費	336万円
県支出金	5617万5千円		
その他	914万4千円		
計	7億6980万2千円	計	7億6959万6千円

介護保険特別会計

収入－支出＝6617万9千円

平成18年度の要介護（要支援）認定者数は、292人となっています。今後も介護サービスの利用が増加していくと見込まれることから、制度の安定的な継続を図るため、給付の適正化に取り組んでいきます。

一般会計からの繰入金 1億2528万3千円

◎基金の残高

介護給付費準備基金 107万7千円

介護を必要とする高齢者を社会全体で支えます。

収入		支出	
科目	金額	科目	金額
支払基金交付金	1億6003万3千円	保険給付費	4億9239万7千円
国庫支出金	1億3819万6千円	総務費	5223万3千円
繰入金	1億2528万3千円	諸支出金	2184万1千円
介護保険料	1億858万1千円	基金積立金	935万4千円
県支出金	8235万円	その他	1156万1千円
その他	3912万2千円		
計	6億5356万5千円	計	5億8738万6千円

下水道特別会計

収入－支出＝9806万6千円

平成18年度末の下水道普及率は88.2%、水洗化率は81.1%となりました。国から事業認可を受けていた区域の整備がほぼ完了しました。しかし、これまでの急速な下水道整備のために、借金残高は平成18年度末で83億3801万4千円となっており、その返済のために一般会計からの繰入金が多額になっています。

一般会計からの繰入金 7億7003万3千円

◎基金の残高

下水道施設改修基金 1億6123万6千円

収入不足のため、下水道への接続促進が課題となっています。

収入		支出	
科目	金額	科目	金額
繰入金	7億7003万3千円	公債費	7億8685万2千円
使用料・手数料	2億6072万4千円	公共下水道費	1億3247万1千円
町債	5120万円	総務費	1億819万3千円
国庫支出金	300万円	特定環境保全公共下水道費	3747万6千円
その他	7810万1千円		
計	11億6305万8千円	計	10億6499万2千円

温泉管理事業清算特別会計

温泉管理事業は、平成 18 年度から民営化されました。

収入－支出＝ 0 円

平成 17 年度末で廃止された温泉管理事業会計の清算のための会計です。平成 17 年度内に収入・支出を終わることができなかったものについて、この会計で処理しました。

一般会計からの繰入金 0 円

収入		支出	
科目	金額	科目	金額
諸収入	2 億 728 万 4 千円	温泉管理事業清算費	2 億 1220 万 9 千円
使用料および手数料	446 万 3 千円		
負担金	46 万 2 千円		
計	2 億 1220 万 9 千円	計	2 億 1220 万 9 千円

公営企業会計

必要な経費を自らの収入で賄う独立採算の会計です。

水道事業会計

安定性が高く安全な水源を確保し、安心して飲める水の供給に努めます。

収益的収支 (経営活動に伴うもの)	収入	4 億 2239 万 5 千円
	支出	4 億 1301 万 9 千円
資本的収支 (建設改良のためのもの)	収入	4614 万円
	支出	2 億 4186 万 6 千円

水道使用量が年々減少していて、水道料金収入もそれに比例して減少してきていますが、事業費の削減により黒字決算（純利益 244 万 4 千円）となっています。今後もより一層の経営効率化を図ります。

一般会計からの補助金 5737 万 9 千円

※資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額は、当年度消費税資本的調整額、過年度損益勘定留保資金で補填しました。

観光事業会計

ロープウェーは、観光資源として大きな役割を果たしています。

収益的収支	収入	18 億 8000 万 5 千円
	支出	9 億 9826 万 7 千円
資本的収支	収入	0 円
	支出	10 億 9591 万円

湯沢高原（温泉）ロープウェーは昭和 34 年の架設から湯沢町の観光の中心を担ってきましたが、近年は厳しい経営状況が続いていました。民間経営のノウハウを取り入れ、より効率的な事業を展開するため民営化されることになり、観光事業会計は平成 18 年度をもって廃止されました。

一般会計からの補助金 13 億 4064 万 6 千円

※資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額は、当年度消費税資本的調整額、過年度損益勘定留保資金、未収金および未払金により措置しました。

病院事業会計

平成 14 年度に開業した病院施設の会計です。

収益的収支	収入	9 億 9383 万 7 千円
	支出	10 億 4259 万 6 千円
資本的収支	収入	0 円
	支出	556 万 7 千円

開院から 5 年が経過し、運営も順調に推移しています。平成 18 年度の事業収益は 9 億 9383 万 7 千円で、前年比 0.1% の増となりました。

外来患者数 61,518 人（1 日平均 209.2 人・前年比 4.4% 減）
入院患者数 22,632 人（1 日平均 62.0 人・前年比 1.8% 減）

一般会計からの補助金 1 億 5000 万円

※資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額は、当年度消費税資本的調整額、過年度損益勘定留保資金で補填しました。

平成 18 年度に一般会計から特別会計・公営企業会計に回したお金の総額は 25 億 7572 万 5 千円に上り、一般会計の支出総額の実に 37.2% を占めています。

この中には、基準があって義務的に回さなければならないものもありますが、一般会計から独立し、それぞれの事業の収入をそれぞれの支出に充てて採算を取るべきとされるこれらの会計の建て直し（特に下水道特別会計）が、町財政の課題の一つです。